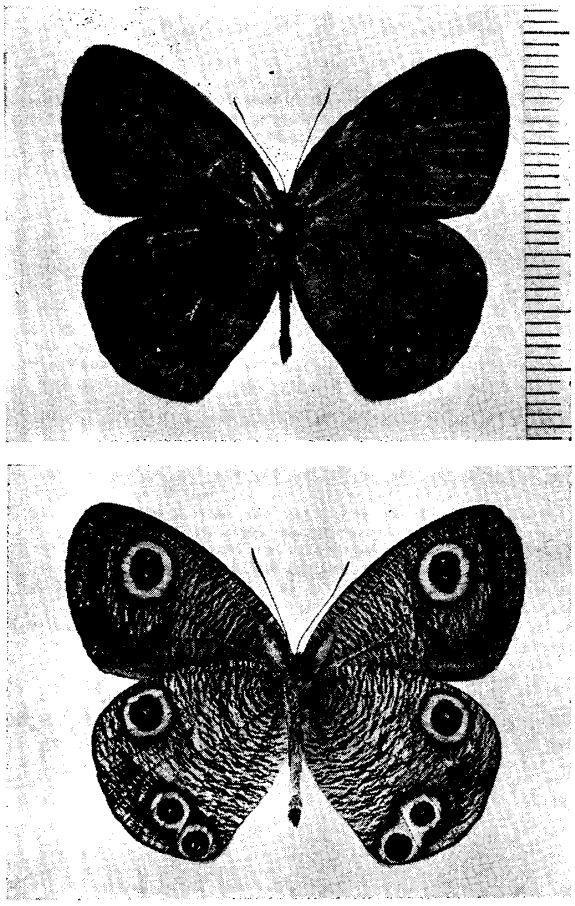
The Lepidopterological Society of Japan

屋久島におけるウラナミジャノメの発見
および4種の注目すべき偶産蝶について

伊藤 建夫・吉崎 和幸・岩永 晶一
神戸市東灘区住吉町観音林1875の1・芦屋市三条南町68・大阪市東成区大今里北2—99

Discovery of *Ypthima motschulskyi* at Yakushima Island and notes on some butterflies from the same island

TATEO ITOH, KAZUYUKI YOSHIZAKI and SHOICHI IWANAGA



ウラナミジャノメ（屋久島小杉谷産）
（上，表面；下，裏面）

1. *Ypthima motschulskyi* BREMER et GREY

従来，屋久島におけるウラナミジャノメ *Ypthima motschulskyi* BREMER et GREY の採集記録は発表されていないが，筆者らは1965年7月に1♂，1966年7月に1♂を上屋久町小杉谷において採集することができたので，ここに屋久島における新記録種として報告する．なお，1965年7月にも1♂（深川，未発表）がえられている．

1♂ 20. VII. 1965 上屋久町小杉谷 採集者：吉崎和幸 保管者：白水 隆（完全品，写真）

1♂ 20. VII. 1965 上屋久町小杉谷 採集者：深川光俊 保管者：吉崎和幸（後翅破損）

1♂ 23. VII. 1966 上屋久町小杉谷 採集者：岩永晶一 保管者：岩永晶一（完全品）

以上3個体はいずれも夏季7月に，海抜約700mの小杉谷部落のみで採集されたが，今後当地を訪れる方々によってさらに調査されんことを期待する．

2. *Hypolimnas misippus* LINNAEUS メスアカムラサキ

1965年7月28日，屋久町尾之間で自然態のメスアカムラサキの卵，幼虫を確認した．なお，本種の野外における幼虫発見は，すでに，1961年9月，長崎県西彼杵郡三重村各地で確認された記録がある．

屋久島では例年本種の成虫採集記録があるが，筆者らも1965年7月には4♀♀，1966年7月には1♂2♀♀をえた．

1♀ 27. VII. 1965 屋久町尾之間 採集者：伊藤
2♀♀ 28. VII. 1965 屋久町尾之間 採集者：伊藤
1♀ 29. VII. 1965 屋久町尾之間 採集者：伊藤
1♀ 14. VII. 1966 屋久町尾之間 採集者：岩永
1♂ 20. VII. 1966 上屋久町楠川 採集者：岩永
1♀ 28. VII. 1966 屋久町安房 採集者：岩永

他に，1966年7月，3♂♂3♀♀楠川（佐伯護，高山元治），3♂♂宮之浦（高山元治，神山久）の各成虫記録がある．また，1966年7月には1♀より採卵に成功し，百数十頭の成虫を得た（高橋誠一郎）．

NII-Electronic Library Service

The Lepidopterological Society of Japan

3. *Hypolimnas bolina* LINNAEUS リュウキュウムラサキ

1966年7月19日，上屋久町楠川で本種（subsp. *philippensis* BUTLER，破損品）の1♀を記録した（岩永）．

同年には他に，7月14日，尾之間で subsp. *philippensis* BUTLER の1♀（高山元治），7月23日，尾之間で subsp. *kezia* BUTLER の1♀（高橋誠一郎）を記録し，かなりの個体が発生したようである．

4. *Limnas chrysippus* LINNAEUS カバマダラ

本種は屋久島では例年夏季に発生し，記録も多いが，1965年に多数の卵，幼虫，蛹，成虫を採集した．また，1966年にも尾之間で成虫2♂♂1♀と若干の幼虫を採集した．1965年の成虫記録を以下に記す．

宮之浦：1♂ 17. VII，1♂ 18. VII（以上伊藤，岡穆宏）

楠　川：5♂♂ 19. VII（伊藤，岡）

尾之間：1♂ 20. VII，5♀♀ 27. VII，4♀♀ 28. VII，3♂♂3♀♀ 29. VII（以上伊藤，岡），2♂♂ 21. VII（吉崎）

5. *Catopsilia pomona* FABRICIUS ギンモンウスキチョウ

1963年7月24日，屋久町中間で本種1♂を記録した（岩永）．なお，同年7月には1♀の記録が知られているが，1965年，1966年には目撃，採集できなかった．

メスアカムラサキ，リュウキュウムラサキ，ギンモンウスキチョウなどは幼虫，蛹が比較的低温に弱いことなどから推定して，ほぼ夏季においてのみの迷蝶による一時的な偶発と考えられるが，カバマダラや本報告には記載しなかったアマミウラナミシジミなどは越冬の可能性もないとは言えない．

数年にわたって連続的に秋季から冬季，初春にかけて観察をおこなえば，上述のような推定や，様々な疑問点もかなり解決されるにちがいない．一部の人々の間ではかなり調査がなされているようだが，今後これらの問題についてさらに積極的に観察調査し解決されんことを期待する．

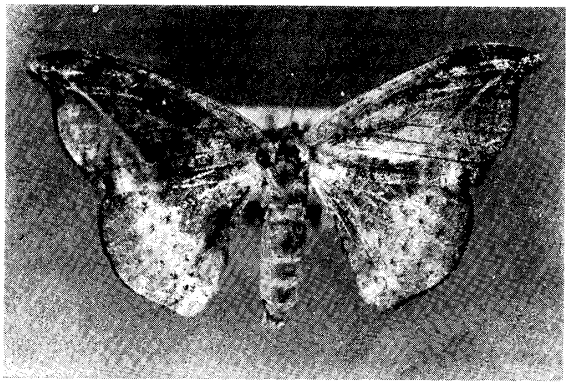
文末ながら，本報告を発表するにあたって，ウラナミジャノメの新記録を確認してくださった九州大学白水隆博士に深く感謝する．また，写真撮影をひきうけてくださった川副昭人氏，ウラナミジャノメの資料およびその他の資料を提供してくださった深川光俊，岡穆宏，神山久，佐伯護，高橋誠一郎，高山元治諸氏に厚く御礼申し上げる．

オキナワカギバ長崎に産す

宮　田　　彬

長崎市坂本町 1699　長崎大学熱帯医学研究所

琉球・奄美大島以南から知られていたオキナワカギバ *Psiloreta loochooana* SWINHOE を長崎市内で採集したので報告する．この標本は雌で1966年の7月頃のある朝，長崎市片渕町の長崎大学経済学部内の外燈に飛来していたものである．筆者は最初詳しくしらべずにアシベニカギバの雌と考え，産卵させようとしたが，結局失敗し，そのまま三角紙包みにしておいたもので，最近展翅してはじめてオキナワカギバであることを知った．本種の原色図と雌雄のゲニタリアは井上寛が図説しており（日本昆虫分類図説第2集第1部 鱗翅目 オオカギバガ科・カギバガ科 北隆館 1962），筆者は同定に際しそれを参考にした．



オキナワカギバは九州本土からは，おそらくこの報告が最初の記録であると思われるが，最近卜沢美久が屋久島の小杉谷で1♂（30.VII.1964）を得ており（市川和夫：屋久島の夏の蛾若干，蛾類通信 No. 43，415—416，1966），少なくとも九州本土では長崎市以外にも産地があるものと思われる．一見裏面の印象など他の *Psiloreta* と似ているので今まで見すごされているのかも知れない．写真は長崎市産オキナワカギバである．標本は筆者が所蔵している．

NII-Electronic Library Service